昭和37年度 一般会計決算

電気ガス税等で四千万円が減収

最終予算総額は九億四千万円

昭和三十七年度は、ご承知のとおり市長の改選年度でありまして、その当初予算は前市長から受けついだものであります。その後の議会において私の意図するところを極力取り入れていただきましたが、前述した通りの財政事情のため、各種事業の実現につき市民の要望に充分応えられなかつたことは誠に残念でありました。

こうした中で当市の昭和三十七年度の主要事業を掲げますと次のとおりであります。

◆、田子浦小学校移転新築事業、七千七百九十九万円。

◆、道、橋梁等土木事業、七千百九十六万円。

◆、市営住宅及び保育園建設事業、六千二百九十九万円。

◆、田子浦港整備事業地元負担金三千八百万円

◆、南中学校新設事業（第二期工事分）、三千四百七十七万円。

◆、都市計画街路整備及び都市改造事業、三千四百二十一万円。

◆、農業生産基盤整備事業一千八百八十三万円

と各種事業の推進を図り、市民福祉のため積極的に諸施策を行つてきたのであります。このことは、市民各位のご理解あるご協力によるものと深く感謝いたします。

次に各会計別に決算状況の概要を説明いたします。

▲一般会計

昭和三十七年度の予算編成に当りましては、特に主要財源であります。電気ガス税の税率引下げとパルプ製造に対する非課税等で約四千万円が減収とみられ、加えて経済界の不振に伴います法人税の減収により法人市民税の減収も必至とされ、市の財政事情の極めて悪条件の下に編成されたのであります。しかし乍ら当市は、今や飛躍的発展途上にありまして、各種重要事業が山積しており、産業基盤であります田子浦港をはじめとし教育、土木、厚生関係など各般の継続的主要事業は、あくまでこれを積極的に推し進めていかなければならないのでありますこのような状況下にありましていかに調整するか最も苦心した所です。

まづ本年度の一般会計当初予算は、七億九千八百七十五万六千五百円を計上いたしました。しかし乍らこれを執行する過程には、現実的になかなか意に添わない点が数多くあり、土木費をはじめとする投資的経費並びに給与改訂に伴います人件費、その他物件費等の経費を六回にわたり予算の追加更正を行いこれを執行したのであります。従いまして最終予算額は九億二千四百七十五万二千三百円と当初予算額より一億二千五百九十九万五千八百円の増加となりました。

これに対し才入決算額は九億四千七百六十三万九千五百六十円、才出決算額九億一千三百四十三万二千百七十三円で差引三千四百二十万七千三百八十七円が翌年度え繰越されました。

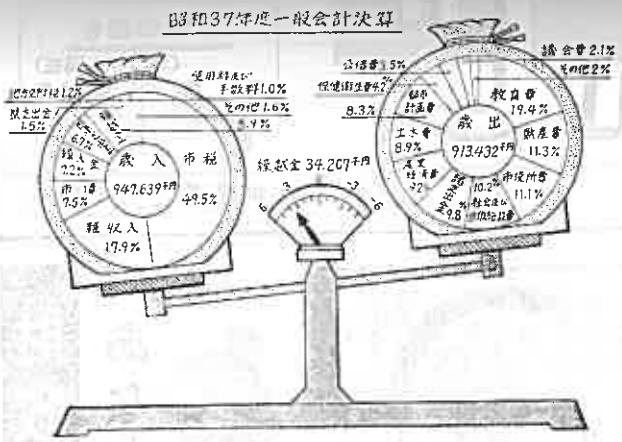
次に才入、才出について記すと。

歳入

才入決算額は、予算額に対し一〇二・五%で前年度に比し若干減率を示しております。又調定額に対する収入割合は、九九・五八%で前年度とほぼ同率であります。この内大半を占めております市税については、四億六千九百六十四万五千八百四十一円の決算額でありますが、前述しました通り電気ガス税の税率引下げ及びパルプ製造に対する非課税等による減収額は、前年度と比較しますと実にこの税目だけで約四千万円（自然増は見込まず）の減収でありました。しかし乍らその他の税目で若干伸びが期待できました。この外依存財源であります補助金、起債、地方交付税の獲得には極力努力傾注しましたが結局前年度より八百八十六万六千百九十五円下廻る決算額となりました。

歳出

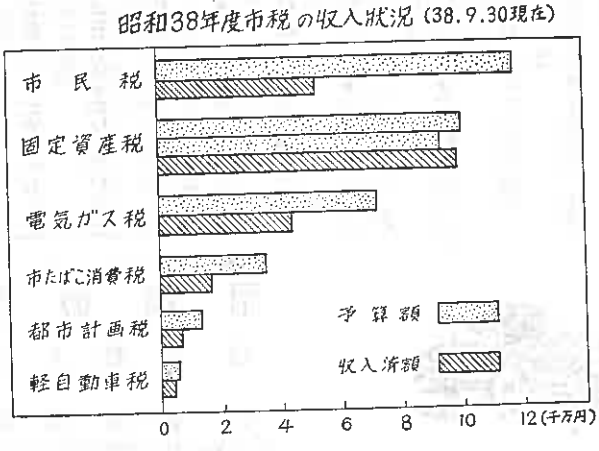
当初予算額七億九千八百七十五万六千五百円に対しまして最終予算額は、九億二千四百七十五万二千三百円となり、当初予算に比し一・一六%増加を示しておりますが、この執行率は、才入同様良好で九八・七八%を示しており前年度とほぼ同率であります。ただし田子浦港整備事業地元負担金については、前年度同様その額は相当多額であり、本年度分としては八千三百十九万五千円でありましたが、この財源、即ち起債の充当可能範囲であります三千八百万円を予算計上しこれを執行しましたが、残額分四千五百十九万五千円については、やむなく支払繰延べせざるを得ない結果となりました。



市税の負担状況

一人当り九、二〇〇円

本年九月三十日現在における市税の調定額は三億九千七百五十三万四千六百円であり、収入済額は二億二千八百六十九万五百七十九円で、これは調定額に対し五七・五二%でありまして前年度同期とほぼ同様の収納状況であります。

市税の徴収成績の如何は、当市の財政に及ぼす影響はすこぶる大でありますので、市民の皆さんの一層のご協力をお願いします。

又、昭和三十七年度市税決算額は四億六千九百六十四万五千八百四十一円でありまして、この年度中に皆さんの収めました平均負担額は、一人当り九千二百四十三円、一世帯当り四万二千七百九十六円となつております。